



第4章

勝率・利益率を究極までアップさせる
LoK式テクニカル＆ファンダの
“合わせ技”

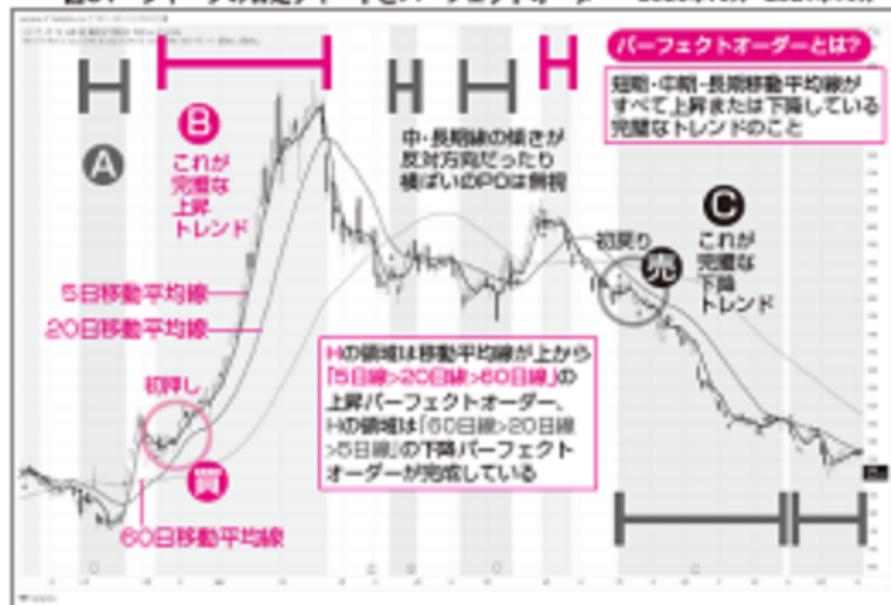
「パーフェクトオーダー」って何？

この第4章では、第3章で説明した待ち伏せピンポイント投資の精度を高めるためのテクニカルファンダメンタルの指標や私、LoKオリジナルの分析法を加味した“合わせ技”を紹介します。

「パーフェクトオーダー」（以下、PO）は、3本の移動平均線がすべて上向きで「短期線>中期線>長期線」というパーフェクトな上昇トレンドの並びになったり、その逆のパーフェクトな下降トレンドの並びになったことを教えてくれるシグナルです。

図51はシャープ（6753）の2020年10月から2021年10月の日足チャートに、移動平均線3本の期間を「5日、20日、60日」に設定し

図51 シャープの日足チャートとパーフェクトオーダー 2020年10月～2021年10月



1

2

3

4

5

で、POを表示させたもの。

Aのゾーンは新たな下降トレンドに向かうかもしれない局面なのでカラ売りで勝負してもいいですが、ローソク足が60日線を上抜けてしまって失敗に終わっています。

Bのゾーンの長期上昇POこそ、待ち伏せピンポイント投資で鉄板の利益を積み上げたい場面になります。

上昇PO完成後はどこで買っても大きな利益が出ました。特に、○で囲んだ初押しの場面が絶好のチャンスでした。

その後に出現した、中期線と長期線が横ばい推移して、**トレンドがはっきりしないところに出現したPOは「無視」**です。

次においしいのは、Cのゾーンに出現した下降PO。○で囲んだあたりが初戻りのカラ売りポイントになります。

POの場所を色分けすることで、同じ「5日線>20日線>60日線」や「60日線>20日線>5日線」でもトレンドがはっきりしていて使えるPOと、トレンドレスで使えないPOがある点をよく頭に叩き込んでください。

超長期移動平均線100日線の活用法

待ち伏せピンポイント投資の基本ルールは、5日線、20日線、60日線もしくは5日線、25日線、75日線という短期、中期、長期の移動平均線の①傾き、②並び、③位置との位置関係で押し日買いや戻り売りを狙うというものです。

そこに**長期線の100日線**を加えて、いずれの移動平均線も右肩上がりで「5日線>20日線>60日線>100日線」という並びが**完成している場合はより力強い上昇トレンド**と判断できます。

100日というとおよそ1年の取引営業日の半分弱で、週足チャートでいうなら、**20週移動平均線に相当します**。

100日線以外にも、海外の投資家などは**200日線**も重視してい

ます。

図52は2017年6月から2021年11月まで、4年半近くの日経平均株価の日足チャートに100日線、200日線を表示したものです。

100日線、200日線の傾きで長期の株価トレンドがわかります。

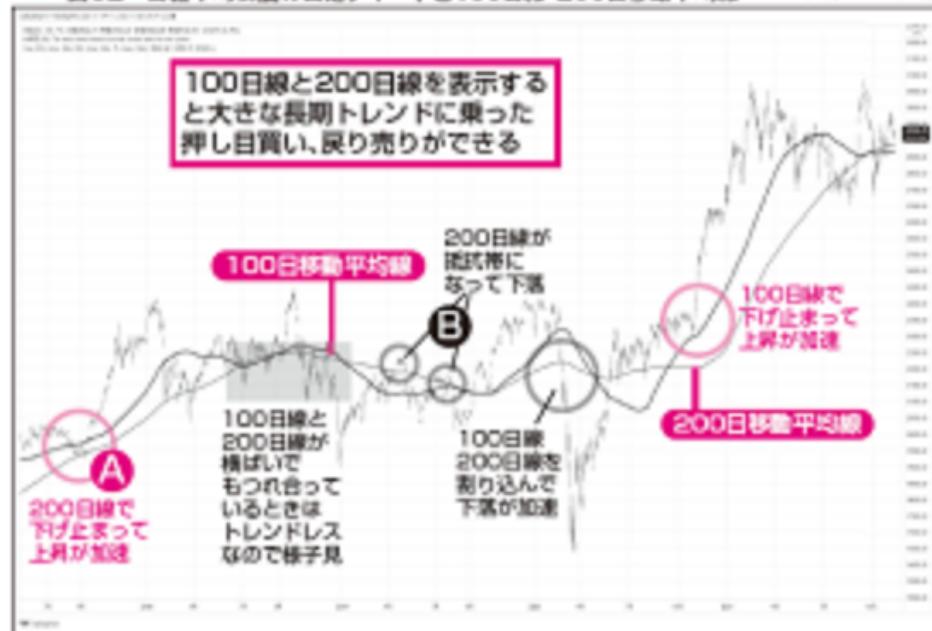
それ以上に重要なのは、図の○で囲んだ箇所で起こったような100日線、200日線にぶつかったときの株価の下げ止まり・上げ止まりです。

200日線まで下がったあと勢いよく上げた局面Aや200日線が上値抵抗帯になったBの期間など100日線、200日線が株価の支持帯や抵抗帯になっています。

2020年3月のコロナショック以降の上昇局面では200日線や100日線が株価の下落を食い止める支持帯として働いています。

普段から「5日、20日、60日、100日、200日」と移動平均

図52 日経平均株価の日足チャートと100日線・200日移動平均線 2017年6月～2021年11月



線を5つまとめて表示すると、より大局観を持った取引が可能になります。

移動平均線をMACD的に見る方法

「MACD（マックディー）」は移動平均線を使った非常に単純な指標で、「MACD = 短期移動平均線の値 - 長期移動平均線の値」つまり、短期と長期の移動平均線の差、間隔を数値で示したものです。とても人気のあるモメンタム指標です。

オシレーター（振り子）系指標ともいわれますが、MACDは0ラインという中間地点を挟んで振り子のような動きをするわけではありません。なので、厳密にはオシレーターではありませんが、オシレーター系指標の一類としても分類されています。

MACDの見方としては、0ラインを超えて勢いよく上昇しているときは上昇トレンドが強いので買い、0ラインを割り込んで下落が加速しているときは下降トレンドが強化しているので売り、というのが基本シグナルになります。

短期売買では、トレンドの方向性も重要ですが、その値動きが力強いものか、弱々しいものかを判断することも大切です。

こうした値動きの強さや弱さ、勢いのことを英語では『モメンタム』と呼びます。MACDはトレンドの強弱＝モメンタムを見るのに適した指標なのです。

MACDの本質が理解できるようになれば、MACDをチャート上に表示しなくても移動平均線だけ表示していれば「今、MACDがだいたい、どんな形になっているか」がわかるようになります。

じゃあ、その本質とは何か？

短期線が中期線の上に飛び出すとMACDは0ラインを超えて上昇トレンドのプラス圏内に入ります。

株価の上昇が続くと平均期間の短い短期線のはうが長期線に比べ

て株価につられて上昇しやすいので、両者の差は広がります。するとMACDはプラス圏をどんどん上昇します。

これって、まさに待ち伏せピンポイント投資で狙う上昇トレンドの初期段階ですよねっ！

しかし、上昇力が鈍り、短期線と長期線の間隔が狭まってくると
MACDは下落に転じます。そのときには長期線の傾きは横ばいに近づいているので、押し目買いは慎重にしたいところです。

つまり、MACDが上昇しているか下落しているかは、短期線と長期線のカイ離散や長期線の傾きを見ていれば、何となく推測できるのです。

MACDを売買に使うときのシグナルには、「MACDとその移動平均線であるシグナルがゴールデンクロスしたら買い、デッドクロスしたら売り」

というものもあります。

しかし、これはトレンド転換を使った取引なので押し目買いや戻り売りにはあまり機能しません。

待ち伏せピンポイント投資では、MACDの傾き＝トレンドの勢いを一番のチェックポイントにしてください。

例えば、右ページの図53は、日経平均株価の2020年11月から2021年5月までの上昇→高値圏で横ばい→下落局面に移動平均線とMACDを表示したものです。

待ち伏せピンポイント投資法で買いエントリーできるのは、上昇トレンドがまだ若い段階で起きた初押しや2押しでのローソク足の5日線上抜けなので、A、B、Cが買いのポイントになります。

このとき、注目したいのは、25日線が右肩上がりで上昇が続いていること。さらに、上昇トレンドの勢いが強い中で押し目（一時的な下落）が起きているかどうかは、MACDが右肩上がりで力強く上昇し続けているかどうかで確認できます。図でいうとAの押し目がまさにそうです。

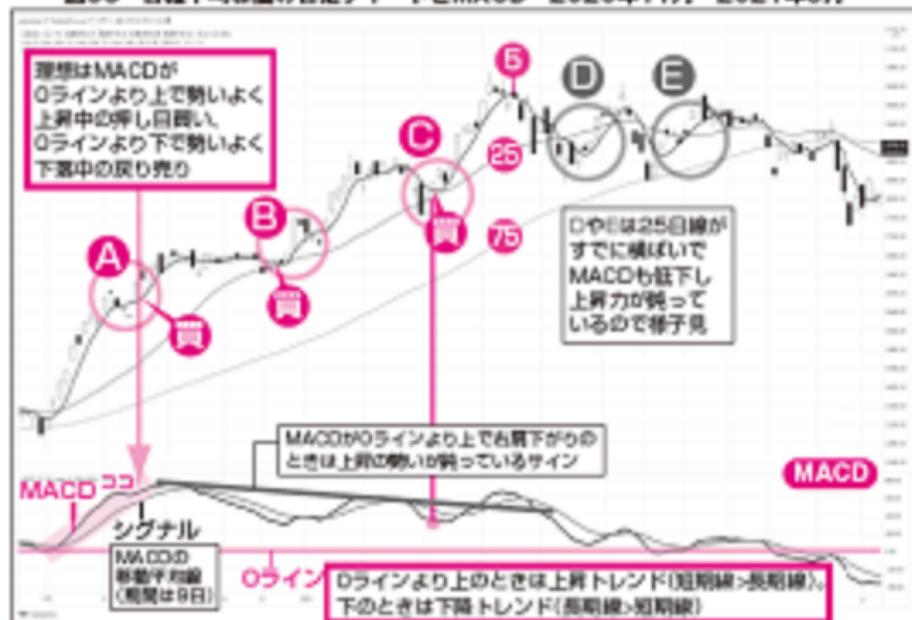
一方、次の押し日買いポイントBやCの時点のMACDはAの時点よりも下がっているので、上昇力が鈍っていることになります。つまり、MACDでは、買いの根拠の補強にはなりません。ですが、BやCも待ち伏せピンポイント投資の基本ルールにのっとった買いポイントであるのは確か。エントリーできなかというと、そういうわけではなく、MACD以外の他の要素と組み合わせて評価することで、勝率を上げていくことができます。

例えば、押し日買いポイントBやCの時点では、まだ25日線の右肩上がりが続いているので買いと判断できるのです。

それ以降のDやEが“鉄板”の押し日といえないので、すでにこの時点で中期の25日線が横ばいになっているから。

つまりMACDだけを見ていても、日足チャート上の中期線がまだ上向きなのか横ばいなのかわからない=トレンドが本当に強いか

図53 日経平均株価の日足チャートとMACD 2020年11月～2021年5月



どうかわからない面があるということです。

移動平均線だけではトレンドの勢いがわからないときはMACDも表示したほうがいいでしょう。

しかし、MACDではなく、短期と長期の移動平均線のカイ離の挙まり（MACDが0ライン方向に戻る動きを示唆）や中期線の傾きの変化に注目することでも、トレンドの勢いはわかります。

移動平均線を見るときに①傾き、②並び、③株価との位置関係だけでなく、④短期と中期、中期と長期の移動平均線の差・カイ離図にも注目できるようになったら、無理してMACDを使う必要はないかもしれません。

過去の高値・安値を基準にチャートを読む

第2章でも触れましたが、上昇トレンドというのは高値と安値が切り上がること、下降トレンドとは高値と安値が切り下がることを意味します。

高値・安値の切り上げ・切り下げからのトレンド判断を最初に提唱したのは、米国の株価指数、ダウ・ジョーンズ工業株平均株価(NYダウ平均)を考案したチャールズ・ダウです。

ダウは「株価の値動きはすべての情報を織り込む」というフレーズでも有名です。ファンダメンタルや買い手・売り手の需給関係といったものはすべてチャートという株価の値動きに瞬時に反映されるので、チャートだけ見ていればいい、という考え方です。

そのうえで、彼はトレンドについて以下のように規定しました。

- 上昇トレンドは「過去の高値と安値が次々と更新されて切り上がっていく状況」。
- 下降トレンドは「安値と高値が次々と切り下がっていく状況」。
- レンジ相場は「一定の高値と安値の間を株価が上下動している状態」。

- 待ち伏せピンポイント投資法の勝率アップに寄与する意味では、
- 過去の高値や安値は株価の下落を阻む支持帯、株価の上昇を阻む抵抗帯になることがある。
 - いったん破られた抵抗帯はその後、支持帯になることがある。逆にいったん突破された支持帯はその後、抵抗帯になることがある。という見方も重要です。そのうえで、
 - 上昇トレンドのとき、直近の高値を超えられなかったらトレンドの力が弱まっている可能性がある。逆に下降トレンドのとき、直近安値を割り込まなかったら、下降トレンド継続を怪しむ。
 - 押し目買いの際、その価格帯に過去に抵抗帯として働いたラインがある場合は反転上昇しない可能性もあるので注意する。戻り売りの場合は、過去に支持帯として働いたラインがあると下落しない可能性も出てくる。
 - 押し目買いのポイントが過去の高値ラインとも重なっていたら、上がる可能性が上昇する。戻り売りのポイントが過去の安値ラインと重なっていたら下落する可能性が高まる。
- といった点を判断の補強材料にすると勝率アップにつながります。待ち伏せピンポイント投資の買いは上昇トレンドの初動段階を狙いますが、そのときも直近高値や直近のもみ合い相場の高値を突破したことが上昇を加速させるケースが頻出します。

例えば、次ページの図54は下降トレンドから長らく底ばいが続いた三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)の2020年10月から2021年4月の日足チャートです。上昇トレンドの過程で上下動が4度起こっていますが、すべて高値と安値が切り上がっています。待ち伏せピンポイント投資では、まず初押し後の陽線Aが買いのポイントになります。

次の2押しは、最初の上昇時につけた高値ラインが下落を食い止める支持帯の役目を果たして、陽線Bがその高値ラインの突破にト

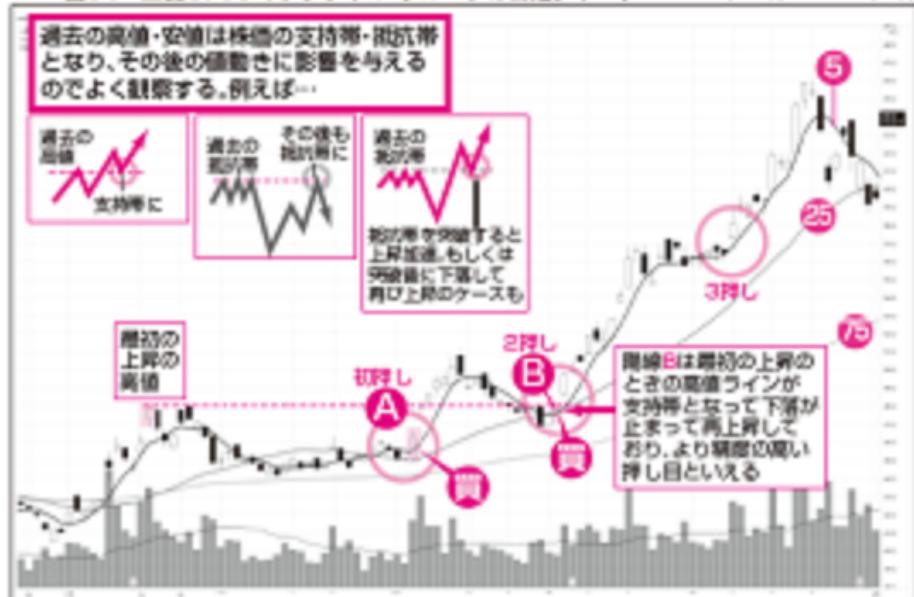
ライ（次の大陽線で突破）。押し目＆過去の高値突破という2つのシグナルが重なり、その後、上昇トレンドが加速しました。

押し目と直近高値突破が重なると強い

直近の高値・安値を突破した地点がちょうど押し目買いを入れるタイミングになると成功の確率も上がります。

右ページの図55は三菱商事(8058)の2020年10月から2021年4月の値動きですが、横ばい相場が続く中で移動平均線の並びが「5日線>25日線>75日線」となり、トレンド転換。その後、Aの陽線が初押し上昇となっていますが、この陽線Aは最初の上昇の高値を越えています。押し目に直近高値突破が重なったことで上昇に弾みがつきました。

図54 三菱UFJフィナンシャル・グループの日足チャート 2020年10月～2021年4月



To be continued...